太宰府市
公文書館通信

2024.10
vol.8

令和改元五年記念・太宰府市公文書館開館十周年記念パネル展

平成から令和へ
ー公文書館の歩みを振り返るー

太宰府市公文書館は開館十周年を迎えました

■ 巡回展スケジュール

①令和6年10月1日(火)〜10月18日(金)　太宰府市公文書館ロビー(土日祝休館)

②令和6年10月21日(月)〜11月1日(金)　太宰府市役所1階市民ギャラリー (市役所開庁時)

③令和6年12月17日(火)〜12月26日(木)　太宰府市文化ふれあい館1階エントランス(月曜日休館)

④令和7年2月3日(月)〜2月14日(金)　とびうめアリーナ1階エントランス

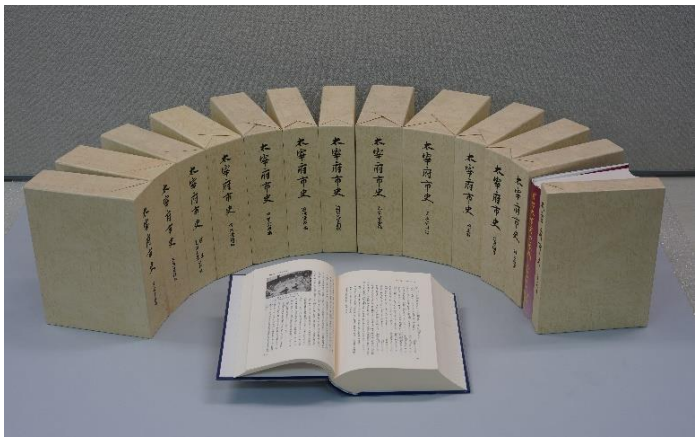
⑤令和7年3月3日(月)〜3月24日(月)　太宰府館2階ギャラリー(水曜日休館)

※どちらの会場も、観覧無料です。
※②〜⑤以外の期間は、公文書館ロビーに常設しています。
※会場は変更になる場合があります。最新の情報は公文書館ホームページをご覧になるか、直接公文書館にお問合せください。

展示の概要

※今回のパネル展ではQR音声ガイドを試験導入します。

音声ガイド



『太宰府市史』全巻（13巻14冊）

本市における公文書館設立構想は、市史編さん事業の過程で生まれてきたものでした。事業が進行するなか、市史編集委員会から「文書館設立に関する要望書」が提出されたのは平成6（1994)年のことでした。それから20年という年月を経て平成26（2014)年4月、太宰府市公文書館は御笠の地に誕生したのです。そして本年4月に、開館10周年を迎えました。この節目の時にあたって企画したのが、公文書館のこれまでの歩みを紹介する今回のパネル展です。公文書館では、現在まで、主に公文書の整理・保存・公開などにあたる文書資料部門と、主に地域資料（編さん史料や古文書など）を扱う太宰府学研究センター部門という二つを柱として業務を続けてきました。今回の展示では、特に文書資料部門の業務に焦点をあてて、公文書館の歩みを振り返ってみることとしました。

まず、年表によってここ30年ほどの公文書館への道のりを辿っています。歴史紹介では、設立前・開館後に分けて、その取り組みを取り上げました。また公文書館には、水城村、太宰府村・太宰府町・太宰府市に遺されていた公文書が多く移管されています。それらのなかから、明治・大正期の議会議事録、昭和期の広報紙を紹介しています。さらに公文書からは、本市のさまざまな事業のありようを窺い知ることができます。ここでは本市を象徴するような事業を取り上げて紹介しました。

太宰府市公文書館全景

さて、先にふれた文書資料部門、太宰府学研究センター部門という二つは、具体的にはどのような業務なのでしょうか。これは公文書館の存在基盤ともいえるものですので、丁寧に説明しています。最後に公文書館開館以降のトピックを取り上げています。まさに「平成から令和へ」と移り変わる時期です。この10年間の公文書館の歩みを振り返ることで、太宰府の現在の姿も垣間見えてきます。

このように、公文書館の歴史を辿ることはそのまま太宰府という“まち”の歴史を振り返ることにつながっているのです。

太宰府市公文書館関係年表

年　　月	事　　項
平成 5（1993）年 5 月	太宰府市史編さん室において、平成 5 年廃棄分公文書の選別作業開始。
平成 6（1994）年 1 月	太宰府市史編集委員会、公文書館法にのっとった文書館の設置と、文書選別を行う専門職員の配置を訴えた「文書館設置に関する要望書」を提出。
平成 8（1996）年 3 月	第三次太宰府市総合計画後期基本計画策定。「公文書館構想の調査、研究」を明記。
平成 15（2003）年 8 月	市史編集委員会、「太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）準備室設置に関する提言」を市史編さん委員会井上保廣会長へ提出。 太宰府学研究センター部門（地域資料）及び文書資料部門（行政文書）の 2 部門の設置、運営委員会の設置などを内容とする。
平成 17（2005）年 3 月	太宰府市史全巻の刊行が完結（13 巻 14 冊）。6 月には完結記念として「太宰府講演会見えてきた『太宰府学』」を開催。
平成 18（2006）年 4 月	市史資料室開設（市史編さん室から名称変更）。
平成 20（2008）年 12 月	第 1 回公文書館構想調査研究委員会（市史編さん委員会を改組）開催。 公文書館（アーカイブス）構想の調査研究・歴史資料としての重要な市の文書、刊行物、地域資料その他の記録の収集、整理、保存、活用及び調査研究・市史編さん計画の立案及び決定・その他必要と認める事項、の 4 点を職務とする。
平成 23（2011）年 3 月	太宰府市行政文書選別・保存審査委員会設置。
平成 23（2011)年 11 月	第 6 回公文書館構想調査研究委員会において折田悦郎委員が「太宰府アーカイブ（太宰府市公文書館）設立について」の提言を行う。 太宰府アーカイブの早期立ち上げを提案するとともに、建物を用意する・専門職員のポストを用意する・法的な位置付けを行う、の 3 点の課題の提示などを内容とする。
平成 24（2012)年 1 月	井上保廣市長・平島鉄信副市長・髙倉洋彰副会長・折田委員による会談。福岡県の共同公文書館構想とは別に独自に公文書館構想を進める方針を確認。
平成 26（2014）年 2 月	市史資料室、国士舘大学太宰府キャンパス跡地へ移転。
平成 26（2014）年 4 月	太宰府市公文書館が開館、まほろば号の上下水道事業センター乗り入れも開始。
平成 26（2014）年 5 月	「公文書館だより」が『広報だざいふ』において連載開始。公文書館への文書移管開始。
平成 26（2014）年 6 月	講師派遣（行政出前講座）開始。
平成 26（2014）年 7 月	第 1 回公文書館委員会開催。
平成 27（2015）年 3 月	『太宰府市公文書館報』『太宰府市公文書館紀要―年報太宰府学―』の刊行開始。
平成 27（2015）年 11 月	初めてのパネル展「昭和の大合併――太宰府町と水城村の決断」と展示見学会を開催。
平成 28（2016）年 11 月	全史料協全国（三重）大会研修会において、「太宰府市における行政文書の保存と公文書館の役割」と題し市の取り組みを報告。
平成 29（2017）年 6 月	記録管理学会研究大会において公文書館見学会を受け入れ。同大会で特別講演「文書の一括管理を目指す太宰府市の取り組み」の講師を派遣。
平成 29（2017）年 8 月	『広報だざいふ』連載「公文書館だより」において、明治 150 年特集を開始。
平成 30（2018）年 11 月	『太宰府市公文書館通信』の発行開始。
令和元（2019）年 5 月	パネル展「年号が改まること―新元号「令和」によせて―」を開催。
令和 2（2020）年 3 月	『太宰府市公文書館紀要―年報太宰府学―』第 14 号 齋藤秋圃特集号を刊行。
令和 2（2020）年 4 月	新型コロナウイルス感染拡大による初回の臨時休館を実施。
令和 3（2021）年 2 月	第 14 回公文書館委員会、新型コロナウイルスにより書面開催に変更。
令和 3（2021）年 10 月	パネル展「開発と史跡保存―大宰府史跡指定 100 年を迎えて―」の見学会を限定再開。
令和 4（2022）年 7 月	市制施行 40 周年を記念しパネル展「令和の都太宰府ゆかりの人々～『太宰府人物志』から～」を開催。
令和 5（2023）年 10 月	10 周年プレイベントとしてパネル展「“まち”の記憶、“まち”の記録―公文書館資料展―」を開催。

歴史紹介１　太宰府市公文書館設立前史～市史資料室の活動～

太宰府市公文書館の設置構想は、1985 年から 2005 年にかけて行われた『太宰府市史』 編さん事業の過程で生まれました。市史を作るために収集した地域資料や古い公文書を、市史が完結した後も散逸することなく保存していく機関が必要と考えられたのです。こうした考えのもと、1994 年には市史編集委員会から市長へ「文書館設置に関する要望書」が提出されています。また、市内外に所在する太宰府関係の古文書等の収集・整理や、保存年限の過ぎた公文書の整理・保存、文書引継書のデータ入力や整理など、市史編さんに係る様々な作業を通して、文書館業務のノウハウが蓄積されていきました。

市史編さん事業が終結し、歴史公文書および地域資料の整理・保存と、市史編さん事業で蓄えられた太宰府学研究を継続する場として、2005 年 4 月に「太宰府市市史資料室」が設置されました。市史編さん室を引き継ぐ形で、太宰府市文化ふれあい館内に設置された「太宰府市市史資料室」は、その後 9 年にわたって、資料調査や展示、『太宰府人物志』の刊行など、さまざまな取り組みを行いました。

▲太宰府市市史資料室（2014 年 1 月）

◀市史資料室の表札

▶展示（2006 年）
文化財課と共催した市民遺産展

▲◀太宰府講演会
（2005 年 6 月 25 日）
市史完結記念として開催。パネル展や市史の販売も行った

▲地域資料調査（2013 年）

歴史紹介２　太宰府市公文書館開館～公文書館の歩み～

太宰府市公文書館は、2014 年 4 月に開館しました。場所は、太宰府市御笠の国士舘大学太宰府キャンパスの跡地です。介護実習棟を改修し、公文書館として活用することになったのです。

4 月 4 日の開館記念式典には 100 名余りが参加し、施設見学も行われました。館内は、見晴らしの良いエントランス、事務室とそこに併設された閲覧スペース、地域資料と行政文書を保存するための二つの収蔵庫、二つの整理室という構成になっています。市区町村が独自に設置した公文書館は全国的にも数が少なく、太宰府市公文書館の開館と活動は注目され、各地で講演をおこなったり、専門誌に取り上げられるなどしました。

▲公文書館開館（2014 年 4 月 4 日） 開館を記念した式典には約 100 名が参加

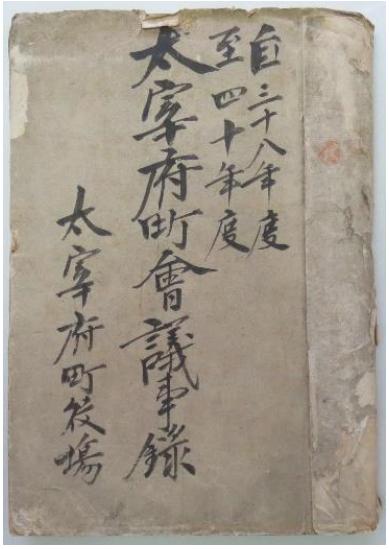
◀中学生職場体験（2016 年） 虫菌害対策についてのレクチャーをしている様子

▲展示解説（2015 年） 開館後初めてのパネル展と展示解説会。太宰府町と周辺自治体の「合併」がテーマだった

▲公文書館委員会（2022 年） 新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、初めてオンラインを取り入れた

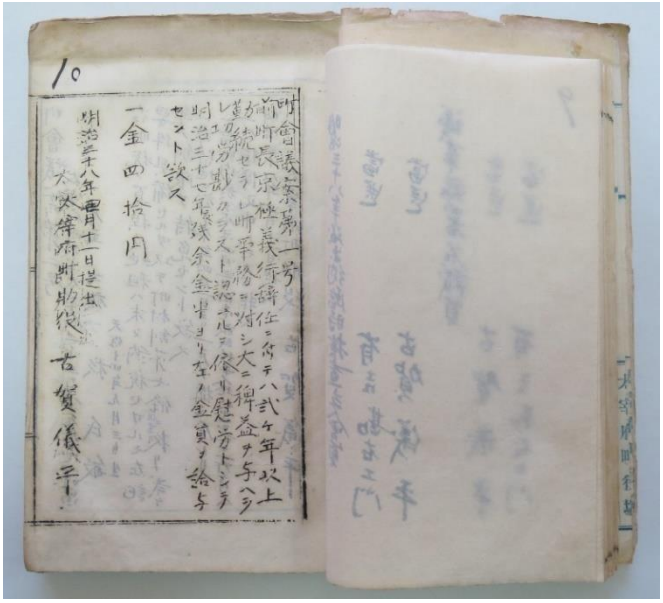
開館からの 10 年は、平成の最後の 5 年と令和の始まりの 5 年に二分されます。令和改元の盛り上がりも含め、めまぐるしい社会の動きとともに歩んできた 10 年でした。新型コロナ感染症に国内が揺れた時は、長期間の臨時休館を余儀なくされ、それまで続けてきた中学生の職場体験やパネル展などのイベントも中止になりました。それでも公文書館委員会はオンラインを併用して開催するなど、社会の動きに対応しながら、歩みを止めることなく地道に活動を進めてきました。

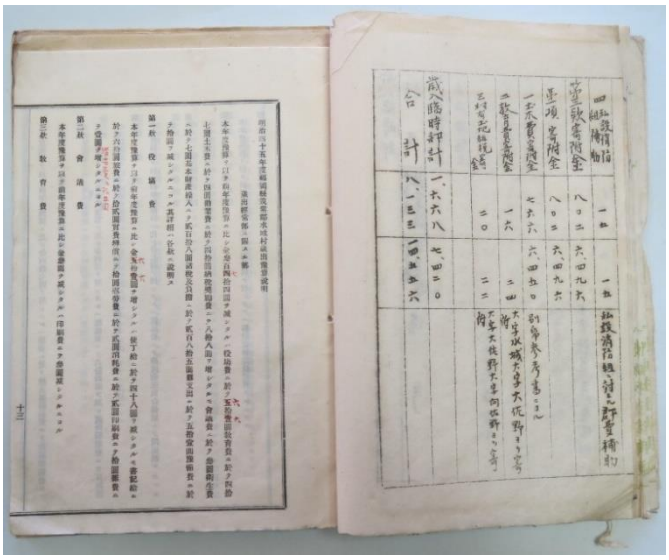
収集公文書１　昔の議会議事録～太宰府町・水城村の議会～



◀明治 38～40 年度
太宰府町会議事録
の表紙

▼町会議案第 1 号
(明治 38 年 4 月 11 日・太宰府町)
第 3 代町長・京極義行の辞任に伴う慰労金給与についての議案





▲明治 45 年度水城村歳出予算説明　水城村のもので最も古い、明治 45（大正元・1912）年の議事録

公文書館は、平成 28（2016）年 3 月に、市制施行前までの議会議事録の移管を市役所から受けました。現在公文書館では、市の母体となる太宰府町と水城村の議事録を収蔵しています。昭和 30（1955）年、太宰府町と水城村が合併して新たな太宰府町が誕生し、昭和 57 年に今の太宰府市となりました。

現在太宰府市に残っている最古の議会議事録は、太宰府町のもので明治 38（1905）年度から 40 年度の町会議事録になります。墨で書かれた表紙は後に付けられたものと思われますが、何とも重厚な雰囲気を出しています。いっぽう水城村で最も古い議事録は、明治 45 年・大正元（1912）年のものになります。では、それぞれ簿冊の内容を見ていきましょう。

中央の写真は、明治 38 年 4 月 11 日に提出された太宰府町会議案第 1 号で、いわゆる「ガリ版」で作成された文書です。辞任した第 3 代町長・京極義行に慰労金を給与することが提案されています。

下の写真は、明治 45 年度の水城村の歳出予算説明です。左のページには、朱書きで金額等の加筆修正を行っているのが見られます。

太宰府町・水城村時代の議事録については、その概要と、細目録の一部を『太宰府市公文書館紀要―年報太宰府学―』に掲載していますので、そちらもどうぞご覧ください。

収集公文書２　なつかしの広報紙と昔の写真

公文書館の収集資料には、古い写真もあります。ここでは、広報紙を作る過程で撮りためられた昭和40年頃の写真と、当時の広報紙を紹介します。

一番上の、ご婦人方が手に手に熊手を持って大宰府政庁跡を掃除している場面は、当時の、市民による史跡保護活動の一環でしょうか。次の、人気（ひとけ）の無い積雪の大宰府政庁跡を撮った 1 枚とあわせ、穏やかな時の流れを感じますが、これ以後、太宰府は大規模な発掘調査が展開される時期を迎えます。

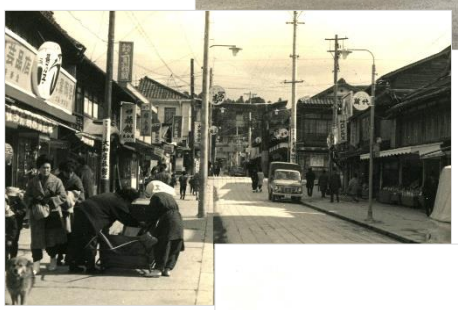
3 枚目の西鉄太宰府駅付近と、4 枚目の太宰府天満宮参道は、観光地としてはおなじみですが、現在とはずい分風情が異なって見えます。九州国立博物館に近い湯の谷区も、団地ができたばかりの頃は、まだまだ家屋もまばらでした。

下は、昭和 43（1968）年 6 月 1 日に発行された太宰府町の広報紙。当時の広報紙はタブロイド判で、太宰府町役場と太宰府町公民館が発行所として併記されていました。1960 年代から 70 年代は宅地の造成が劇的に進んだ時期で、先ほど見た湯の谷も、記事にある都府楼台も、その頃に団地が形成されました。

▶大宰府政庁跡での清掃活動

◀雪の大宰府政庁跡

▶西鉄太宰府駅付近の交差点

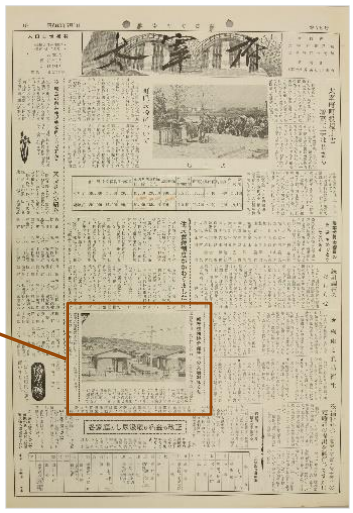


◀太宰府天満宮参道

▶湯の谷団地

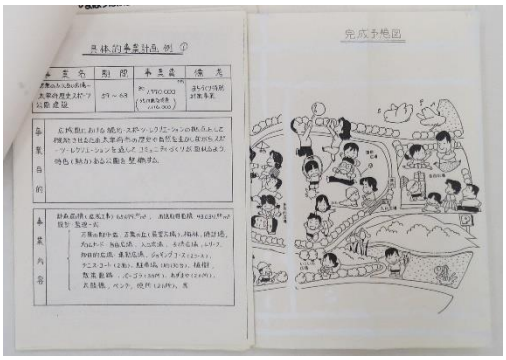
都府楼団地分譲住宅の入居お知らせ

福岡県住宅供給公社の計画により かねて国道三号線沿いに造成中の都府楼団地第一期工事が四月末に竣工し、五月から入居お知らせ



▶太宰府町広報　第 75 号（1968 年 6 月 1 日）　140 戸の家屋が 4 月に竣工したばかりの、第 1 期都府楼団地分譲住宅の記事が見える

▲（左）『太宰府ルネサンス—21　まほろばの里づくり　その創造とプラン』（中央）『太宰府ルネサンス—21　職員からの提言集』（右）『太宰府ルネサンス—21　市民からの提言集』　左は、太宰府市らしさの体現を目指す「まほろばの里づくり」計画を示す。中央と右は、平成元（1989）年1月に職員と市民から募集した提言をそれぞれまとめる



◀『太宰府ルネサンス—21　まほろばの里づくり　その創造とプラン』手書き原稿

新しい行政のあり方を求めて

「太宰府ルネサンス」には、「太宰府の古き良きものを大切にしながら、新たなる文化変革を起こす」という意味が込められています。来るべき 21 世紀を前に、太宰府市の職員は「太宰府らしい」まちづくり（史跡のまち・美しい自然のまち・新旧住民と学生が混在するまち）を進めるため、昭和 60（1985）年に「まほろばの里推進協議会」を立ち上げ、行政の見直しと、これからの新しいまちづくりの研究を始めました。

上の冊子は、この取り組みにより作成されたものです。今となっては珍しい手書きの原稿も、市役所から公文書館へ移管された文書の中に見付かりました。

都市計画道路・長浜太宰府線の整備

公文書館では、長浜太宰府線の区間の一部である、立体交差部の模型を収蔵しています。長浜太宰府線は、福岡市を起点に春日市・大野城市・筑紫野市を経由し、太宰府市を終点とする都市計画道路です。

現在、通古賀交差点と大佐野交差点の間は、JR 鹿児島本線と九州縦貫自動車道の下をくぐる形で県道 505 号が通り、JR 線路と交差する箇所がアンダーパスとなっていますが、この部分は踏切待ちの交通渋滞解消に向け平成 11（1999）年に開通しました。

完成予想模型と思われる模型は、九州縦貫自動車道と県道が交差する部分で、上を通る九州縦貫自動車道の一部を取り外しできるようになっています。

▲立体交差模型（500 分の 1）

業務紹介１　文書資料部門～公文書移管の流れ～

太宰府市公文書館の業務は大きく二つに分けられます。公文書の移管・保存を行う「文書資料部門」と太宰府地域の古文書などの受け入れ、調査、保存、閲覧業務を行う「太宰府学研究センター部門」です。

「文書資料部門」では、市役所で廃棄予定年度に達した公文書のなかから、太宰府市にとって永く保存するべき重要な文書を選別し、公文書へ移管して保存しています。公文書館へ移管し、保存するまでの流れを簡単に紹介します。

まず市役所で年に１回「文書引継作業」というものが行われます。これは、各課で作成・保管していた文書を、文書情報課に引き継ぎ、文書情報課が管理する書庫へと移す作業のことです。この引継作業の時に公文書館職員は、将来公文書館へ移管するべき文書を選び出し、仕分けを行います。これを「第一次評価選別」といいます。仕分けの際は、文書を、保存年限ごとかつ移管予定、廃棄予定ごとに新しい文書箱に入れなおします。

こうして仕分けが終了した文書は、書庫へと移動し、保存年限まで保存されます。保存年限を迎えると、「第一次評価選別」で公文書館へ移管と判断された文書が公文書館へ移管されます。

公文書館では、移管されてきた文書箱に公文書館のラベルを貼って整理室で管理し、「第二次評価選別」に備えます。「第二次評価選別」とは、移管された公文書が公文書館で保存するべきものなのかどうかを再評価することです。「第二次評価選別」の結果を、行政職員で構成する行政文書選別・保存審査委員会にはかり、委員会の審査を経てようやく公文書館で保存することが決定します。保存が決定した公文書は、新しい文書箱に入れ、行政文書収蔵庫に移し保存されます。保存した文書の情報や文書箱の位置はデータベースソフトで管理し、必要に応じてすぐに取り出せるようにしています。

▲文書引継作業と第一次評価選別（2024 年）

▲文書箱の内部　文書のタイトル、作成年度等をリストと照合した後、保存年限ごとに、公文書館へ移管予定の箱と廃棄予定の箱に振り分けていく

▲行政文書収蔵庫（公文書館）

業務紹介２　太宰府学研究センター部門～地域資料保存の流れ～

「太宰府学研究センター部門」は、太宰府地域に残る古文書などの資料の調査、目録作成、保存、閲覧業務などを担当します。資料をデジタルカメラで撮影し、画像データを作成することも業務の一つです。地域資料の現地調査から保存までの流れを説明します。

家にある古い資料について、寄贈・寄託の相談や依頼を受けると、公文書館職員は所蔵者宅を訪問し、どんな資料なのか、どのくらいの量があるのか、どんな状態か、を確認します。この現地調査を経て、資料を公文書館に受け入れるかどうかを判断します。様々な環境で保管されていた古い資料には、ムシやカビが発生していることがあります。そのため公文書館へ運び込まれた資料は、調査を始める前にクリーニングなどを行い、ムシやカビへの対策を施します。

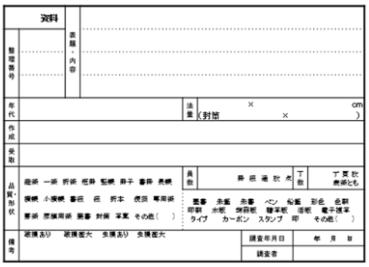
こうして調査の準備がととのうと、まず概要調査を行います。概要調査では、資料が運び込まれた時の秩序を崩さないように留意しながら、整理番号を付けていきます。こうすることにより、いつでも資料の元の状態を再現することができます。概要調査が終わると、資料１点ごとに調査カードを作成していきます。内容や形状をカードに記録していく作業です。次に、調査カードの情報をとりまとめ、資料目録を作成します。ここまで出来上がると、どんな資料が何点あるかが一覧でき、全体を把握することができます。

次は、完成した資料目録をもって、所蔵者に報告を行います。その後、所蔵者の意向を確認し、寄贈や寄託に進む場合があります。公文書館に寄贈や寄託された地域資料は地域資料収蔵庫で大切に保存されます。

▲整理番号の短冊をはさんだ資料　概要調査では、運び込まれた時の資料の秩序を崩さないよう、資料１点ごとに整理番号を付ける

▲資料調査、調査カード作成　資料の内容や形状を調査カードに記録する

▶調査カード



資料

整理番号	
書類・内容	
年代	法量 ×　cm（封筒　×　）
作成	
受取	
品質・形状	種類 一紙 折紙 冠帯 短冊 巻子 書簡 表紙 / 綴帳 小綴帳 書冠 冠 折本 袋綴 写真帖 / 書帖 原稿用紙 簡書 封筒 写真 その他（　） / 表面 / 裏面 / 丁数 枚数 / 墨書 朱墨 赤墨 ペン 鉛筆 彩色 金銀 印刷 印鑑 印鑑 墨印 墨印 電子複写 ライブ カーボン スタンプ 印 その他（　）
備考	破損あり 破損重大 汚損あり 汚損重大 / 調査年月日 年 月 日 / 調査者

▲地域資料収蔵庫

トピック紹介　平成から令和へ　2014－2023

平成のラスト 5 年間～2014－2019～

公文書館が平成 26 年に開館してから令和改元に至るまでの5年間、太宰府市では、いにしえから連綿と続く歴史を感じさせる行事や、新しい時代のスタートを予感させる出来事がありました。

▶太宰府観光列車「旅人」運行

◀太宰府ライナーバス「旅人」運行

▲水城・大野城・基肄城 1350 年記念式典

▲太宰府市総合体育館「とびうめアリーナ」開館

▼水城館開館

▶大宰府史跡発掘 50 年記念イベント

令和のスタート 5 年間～2019－2023～

令和改元から公文書館開館 10 周年までの 5 年間は、太宰府市にとって、お祝いムードも半ばに、厳しい試練の期間となりました。

5 年間を振り返ると、新時代のスタートからほどなく全世界を襲った、新型コロナウイルス感染症の蔓延にもひるまず、力強く進む太宰府市が見えてきます。

▼大宰府政庁跡で「令和」人文字作成

▲新元号「令和」発表にともなう記者会見

◀民間委託による小学校プール授業試行

▶ワクチン接種開始

◀防災無線での新型コロナウイルス感染症予防呼びかけ

◀中学校でオンライン授業開始

▼中学校完全給食スタート

捨てる前にお知らせください

公文書館からのお願いです。

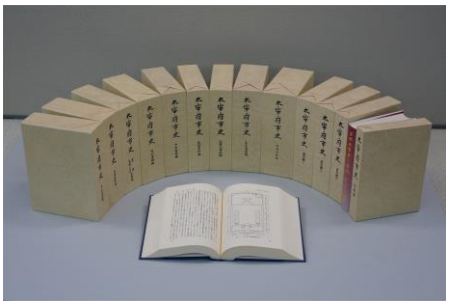
わたくしたち公文書館では、町や市が作成した公文書だけではなく、市内に残されている江戸時代や明治時代以降の書付・手紙のような古文書あるいは古い書籍なども収集、整理しています。

コロナ禍の頃には、外出ができないことからいわゆる断捨離がブームになりました。これから年末に向かうと、新年を迎えるための大掃除をされるご家庭も多いことでしょう。そんな時に古文書の類が見つかることがあるかもしれません。今の私達には不要にも思われますが、それらは先人たちが遺した足跡をたどる大切な手掛かりになります。また、地域の歴史や文化をより深く、より豊かに語るための貴重な材料ともなることでしょう。ご自宅で古文書などが見つかったら、廃棄処分前にぜひ公文書館までご一報ください。

新元号「令和」の出典『万葉集』所収の“梅花の宴”について、『太宰府市史』が詳しく解説しています!!

◎「梅花の宴」を詳しく知りたい場合は
『太宰府市史　通史編Ⅰ』
◎「梅花の宴」の原文および注釈を調べたい場合は**『太宰府市史　古代資料編』**
◎『万葉集』の中で、大宰府で詠まれた歌を調べたい場合は**『太宰府市史　文芸資料編』**

販売価格：１冊　５，０００円
(郵送の場合は送料実費が別に必要です)
問い合わせ：太宰府市公文書館

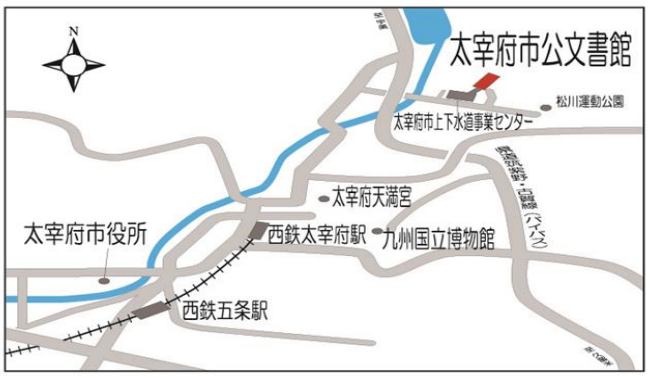


『太宰府市史』は、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

この機会にぜひ、ご検討ください!!
154,000 円の寄附金額で全巻(13 巻 14 冊)
33,000 円の寄附金額で「令和セット」
（通史編Ⅰ・古代資料編・文芸資料編）

公文書館へお越しになるなら～アクセス・ご利用案内～

公共交通機関ご利用の場合は、コミュニティバス「まほろば号」（北谷回り）にご乗車ください。西鉄五条駅 or 西鉄太宰府駅（太宰府線）⇒上下水道



閲覧時間　午前 9 時～午後 4 時 30 分
（閲覧のための入館は午後 4 時まで）
閉　館　日　毎週土曜日・日曜日、祝日
年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

太宰府市公文書館通信　Vol.8

編　集：太宰府市公文書館
〒818-0110
福岡県太宰府市御笠五丁目 3 番 1 号
電話：(921)2322　（直通、FAX 兼用）
E-mail：kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp
発　行：太宰府市
発行日：令和 6 年 10 月 1 日